

生 き る 力 の 育 成

生徒一人一人を生かす学習指導を通して

I 主題設定の理由

平成24年度から完全実施の学習指導要領は既に告示されている。平成20年度はその周知期間とされていて、今年度は道徳の時間や数学・理科に関しては新学習指導要領の内容が先行実施される。

また「知識基盤社会」の時代において「生きる力」の育成がますます重要になるとし、そのために「知識・技能の修得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること」が方針として示された。

このことを踏まえて、昨年度本校では、学校課題を振り返り、「生きる力」、特に「確かな学力」の定着に関して、各教科等における知識や技能の修得について重視した上で、それらの知識や技能を生徒一人一人が自らの学びに即して活用を図る授業改善を実践してみた。

本年度は、昨年度の研究の成果を踏まえて、それをさらに発展・深化させる授業実践を中心にして「確かな学力」をはぐくむ指導の在り方について共通理解を図っていきたい。

II 研究の具体的内容と方法

1 生徒に「確かな学力」をはぐくむための授業実践

教科担任一人一実践をめざし、学習指導案を作成し校内職員に公開授業をする。

2 「生きる力」を育成するためのキャリア教育実践や個々の生徒理解の促進

スクールカウンセラーからの報告や、キャリア教育実践学年からの報告等によって生徒個々の理解を深める。

III 研究成果

1 授業実践をとおして

(1) 全員が授業を提供し、各授業ごとに研究会をもてた。その中の1回は、外部からの指導者を招聘して、研修を深めることができた。

(2) 各教科の授業を見ることによって様々な側面から生徒の活動が見られ、それが自分の教科にも生かされることはたいへんよかった。

(3) 思考力・表現力を身に付けさせる工夫を取り入れた授業の試みをし、その結果、これらの力が本校生徒にやや不足しているものであることが確認できた。このことから日常の指導において意識しなければならないこと、来年度に向けて取り組んでいかなければならないことなどが明確になった。

(4) 全員が、副主題の「一人一人を生かす学習指導を通して」の視点での授業実践をした。「個が生きる」「個が高まる」ことは、とりもなおさず「集団の質の向上」につながるものであり、「集団」を意識しにくい小規模校においては、指導の基盤づくりとも言える取り組みとなった。

2 領域別実践をとおして

教科と領域は、学習の両輪である。領域別学習の範囲は多岐にわたるが、今年度研究では、特にキャリア教育、特別支援教育を取り上げ、併せて、スクールカウンセラーからも、研修を兼ねて生徒理解のための報告をしてもらった。特別支援の生徒の指導の取り組みとその成果、今後の課題やスクールカウンセラーによるカウンセリングの様子を聞くことで、共通理解を図ることができた。

キャリア教育については、平成18・20年度に県の指定を受けて取り組んできた経緯もあり、「生きる力の育成」にとって必要不可欠であることから、実施した2学年からの報告を受けた。その中から、受け入れ事業所の少なさ、日程調整の難しさなどの課題が出され、来年度実施に向けて取り組みの方向性が見えてきた。

IV 課題

昨年度研究の成果と課題を踏まえての継続研究としてスタートしたが、研究の内容、方法等において次のような課題が残った。

① 主題に迫るための「仮説→実践→検証」の流れが見えず、具体的な見通しがもてないまま進んでしまった。

② 授業実践をする上で、共通した観点をもって授業を仕組んだり観察しないと、議論が深まらない。ポイントを絞った授業研究をする中で、理論研究もしていきたい。

③ 今年度研究の中で明らかになった本校生徒の課題は、思考力・表現力がやや不足していることであると言えよう。これらの力をつけ、研究主題「生きる力の育成」に迫るために、来年度研究でどう取り組んでいくか考えていかなければならない。

④ 見通しをもった研究会運営を工夫していくために、より綿密な計画を立てる必要がある。それとともに、実践のためのグループ分けについて、再考の余地がある。

(研究主任 澤登正仁)